



4月15日から参議院選挙までの第1次上映運動では、2600人を超える人たちが「わが青春つきるとも伊藤千代子の生涯」を観に来てくださいました。鑑賞後のアンケートを読

ませてもらうと、すべての人に感動をもって受け止められたことが分かります。そして参議院選挙後から「第2次上映運動」が始まります。戦前の天皇主権・軍国主義の時代にあつて、平和・自由を不屈に求め続け、犠牲となった伊藤千代子の生き様を、更に多くの人たちに観てもらうことは、翼賛政治が進み、軍国主義復活へと平和憲法改悪への動きが強まるなかで、伊藤千代子がめざした平和・自

今後の上映計画は次のとおりです。

7月17日(日) 労働会館東館ホール午後2時

7月18日(月) 豊橋文化会館午前10時、午後1時半

8月14日(日) 津島文化会館午前10時、午後2時

9月9日(金) 港文化小劇場午前10時、午後2時、6時半

9月17日(土) 瀬戸蔵つばきホール午後2時

「第2次上映運動」始まる



No.203

2022年7月15日

発行者：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

愛知県本部

461-0004 名古屋市

東区葵1-22-26

愛知民主会館内

Tel: 090-9175-9598

Fax: 0564-79-0561

メール

: qdcso14344

@yahoo.co.jp

私たちの運動の基本

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 一、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 一、国は治安維持法の犠牲者に

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

■県同盟の現勢

7月1日 775名

【入会者】6名

知多1、津島1、西三1、尾北1、南東1、名北1

【退会者】5名

知多3・稲沢1・名北1

お知らせ 8月28日～29日 苦小牧「伊藤千代子の手紙を見る」旅

千歳空港集合、千歳空港解散申し込みは藤田廣登さんまで携帯電話090 4

527 1129 9月24日～

25日 伊藤千代子顕彰の旅 伊藤千代子墓前祭に参加します。詳しいことは不屈愛知県版8月号でお知らせします。

第40回全国大会開催

コロナの為、一年間延期されていた第40回全国大会が、6月12日と13日の両日、東京「全労連会館ホール」で開催されました。今年の2月6日に増本会



長が急逝され、吉田会長代理のもとで大会は進められました。全国からの代議員の様々な経験・取り組みが報告され、二万名の国賠同盟建設に向けて「わが青春つきるとも」の上映運動を更に広げていくことなどを満場一致で決議し、吉田会長以下の役員を選出しました。愛知からは若山晴史が中央副会長。田中節子女性部長が常任理事に、西田一廣会長と森繁樹両名が中央理事に選出されました。

本日（5月28日・土）、北区文化小劇場にて「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯の映画を観てきました。キャパ300人くらいらしいけど、ソーシャルデスタンスで席は一人置きでしたが、あまりの満員で、急きよ「会場の許可が出ましたので並びで座ってくださいしても良いです。」とアナウンスされるほどの大入りでした。

上映前の挨拶で、話された方が、この映画は、ぜひ中学生や高校生の若い人たちに観てもらいたいと話されましたが、真にその通りだと思いました。これは本当にあつた事実だということ。そして、これは過去のことでではなく、今でも闇に紛れてやられていくことを、国民はもつと知るべきだし、知らせなければならぬと思います。元特高警察のメンバーが、今でも復権して公職の中に大勢いることを言っていたことはとても重大なことだと思えます。それに関連して出てくるのが、あのスリランカから日本に来て、収監中に入管施設で殺されたウイシユマ・サンダマリさ

治安維持法と現代の定期購読をお願いします



協的に読みどころ満載の1冊です。まず、山田敬男労働者教育協会会長による「『歴史戦』とは何か——その狙いと歪曲された歴史認識」。主として第2次安倍政権以降に強まっている、政治による歴史わい曲Ⅱ「歴史戦」の特徴を整理したもので、「侵略と植民地支配の歴史的真相をあきらかにし、

ん事件のことです。伊藤千代子の死とウイシユマさんの死は明らかに共通している、入管の職員は元特高警察だったことが容易に推察できる。この映画を観終わったあと、あれだけの弾圧を受けてもなお闘う姿勢を崩さない不屈の精神と、未来に向けて明るい希望を持ち続け、闘いのバネにしなければと思います。そして、もっと多くの人たちに観てもらいたいと思いました。港区での上映はいつになりますか？1日も早い上映を待っています。

名南支部 佐々木 晶彦

月刊「学習の友」・勤労者通信大学で活動されている労働者教育協会のブログで「治安維持法と現代」2022年春季号が紹介されました。

治安維持法と現代』2022年春季号は読みどころ満載国家賠償要求同盟編『治安維持法と現代』2022年春季号（No.43）は、労働

次ページで山田会長の論文を一部掲載します。

「歴史戦」とは何かー そのねらいと歪曲さ れた歴史認識

山田敬男

●佐渡金山の推薦と「歴史戦チーム」の立ち上げ

去る2月1日、岸田文雄内閣は「佐渡島の金山」(新潟県)の世界文化遺産登録をユネスコに推薦することを決定した。昨年12月に文部科学省の文化審議会が世界遺産登録をめざす候補に、佐渡金山を選ぶと韓国政府が撤回を要求した。

韓国政府は戦時中の佐渡金山において朝鮮人の強制労働が行われ、その記録が不十分であることを理由に、遺産登録に抗議したのである。

これに対し、岸田首相は、日韓関係の悪化への懸念やユネスコ加盟国の反対を考慮して、推薦には慎重であっ

た。ところが、安倍晋三元首相ら日本会議系の自民党議員グループの強い圧力があり結局、岸田首相は圧力に迎合し、推薦を閣議了解する。1月18日、安倍氏が顧問を務め、安倍氏側近らによって構成される「保守団結の会」が速やかな推薦を政府に要求する決議をあげた。翌日、同会メンバーである高市早苗政調会長が「堂々と推薦を行われなければならぬ。日本国の名誉に関わる問題」と記者会見で発言する。安倍氏は、自身のフェイスブックで「歴史戦を挑まれている以上避けることはできない」と発言し、「夕刊フジ」のインタビュー(1月27日付)で韓国の「強制労働があった」という抗議に対し、「いまこそ、新たな「歴史戦チーム」を立ち上げて、

日本の誇りと名誉を守り抜いてほしい」と語っている。こうした圧力に妥協した岸田首相は、官邸内に、内閣官房、外務省、文部科学省からなる作業部会Ⅱ「歴史戦チーム」を立ち上げたのである。

●佐渡金山と強制労働

佐渡金山は、江戸時代に幕府の直轄下で採掘され、1989年に閉山するまで大量の金銀を産出し、近代日本の産業と経済の発展に大きな役割果たした。ユネスコに推薦する遺跡としての意味があることは間違いない。ただ、推薦するのであれば、戦時中に朝鮮人の強制労働があったことも、歴史的事実で、その誤りを認め、その全体像をあきらかにする必要がある。新潟県が編纂した「新潟県史」や佐渡金山の一部があった

元相川町が編纂した「相川の歴史」には、朝鮮人の強制連行が記述され、朝鮮人が危険で劣悪な「坑内労働」に集中的に配置されていたことがあきらかにされている。こうした公文書で強制労働、強制労働が行われたことがあきらかにされており、それを「日本の誇りと名誉」のために否定する「歴史戦」などを許してはならない。・・・

この続きはぜひ治安維持法と現代の定期購読でお読みください。

お申し込みは

若山晴史

090-9175-9598

東ちづ子

090-5101-0503

加藤勉

080-1552-8376

までご連絡ください。定価1000円(送料180円)